

だれでも楽しめる

船旅・島旅

一人ひとりにあった
ユニバーサルデザイン旅の手引き



1 だれもが楽しめる船旅・島旅の実現に向けた『手引書』の目的

日本は大小多くの島で構成され、本州や北海道、四国、九州、沖縄本島を除く有人離島が 400 以上も存在します。その島々の生活を支える要の船は、生活面や観光面で重要な役割を果たしています。

しかし、「船に乗って島に行く」という旅行を経験したことがない人が多いのも事実です。その中には、社会的コミュニケーションや対人関係の困難さを抱えたり、光や音、味や匂いなどの感覚が敏感だったりして、不安を感じ、旅そのものを躊躇する人も多くいます。

このような特徴、すなわち「見えない困りごと」（以下、「困りごと」と表記）を抱える人たちには、事前に情報を伝え、旅行の「見通しがある」状況を提供することが大切な情報保障であり、不安を取り除く手がかりとなります。

インターネットや SNS がなかった時代、旅行会社などによって「事前旅行説明会」が頻繁に開催されてきました。事業主にとって最大の目的は旅客の獲得でしたが、「困りごと」を抱える人たちの視点で捉えると、写真とともにわかりやすく事前に説明を受けられることは、待合せ場所や利用する交通機関、観光、ホテルなどの行き先といった情報を予習でき、旅の見通しが立てられ、旅行をする動機づけになったと考えます。

ユニバーサルデザインの視点で見ると、「困りごと」は、実はその人自身ではなく、社会側が作り出している場合が多々あります。つまり、旅行を提供する側が“環境調整”の配慮をするだけで、旅行しやすい状況を作り出すことができますと言えます。

例えば、他人の視線や大きな音が気になる人には、プライベート空間が確保できるスペースや場所の情報を提供したり、普段と異なる食事に不安を覚える人には、メニューの選択肢が多い飲食店を選んだりして、旅行する環境を調整します。また、トイレも同様で、旅行先のトイレがネックとなる場合があり、立ち寄る場所のトイレの写真を見せることで、旅行の実現性は格段に高まります。

「困りごと」を抱える人たちが船旅や島旅を実現させるには、「見通しがあること」「困りごとを理解し、必要な工夫や配慮をすること」が大切です。そのために必要となるのが事前学習材料となる「旅のしおり」です。本書は、どのような工夫と配慮をもって「旅のしおり」を作るかを紹介する手引書です。

なお、本書の制作については、ユニバーサルデザインの視点から専門家の橋口亜希子さんに解説と監修をお願いしました。



2

「旅のしおり」の必要性

「困りごと」を抱える人たちは、旅行全体の「見通し」が立たないと不安に感じる事が多く、その場合に必要となるのが事前学習冊子の「旅のしおり」です。

旅行において、物事や場面の意味がわかるように、「時間」「空間」「プロセス」を視覚でわかりやすく伝える“構造化”の考え方にに基づき、旅行行程をすごろく形式で表し、写真やイラストを用いてわかりやすく案内していきます。

本書では、「事前に何をするのか予定がわからないと不安、見通しが立たないと不安」という「困りごと」を抱えるアイちゃん（仮名）とその母親に、実際に船に乗って島を旅した際に使用してもらった「旅のしおり」を事例にあげながら紹介します。



アイちゃん親子が使った旅のしおり



◎ユニバーサルデザインコンサルタント 橋口亜希子さんの紹介

障害は個人に起因するのではなく、社会（環境）の側が作りだしているという「障害の社会モデル」の考えに基づき、「困りごと」を抱える人たちに必要な「環境調整」を伝える専門家として、また「困りごと」を手がかりとしたユニバーサルデザインコンサルタントとして活動。さまざまな「困りごと」を集めて整理し、社会や事業者に伝えている。



東海汽船の大型客船「さるびあ丸」

「旅のしおり」の制作にあたり 大切なこと

「旅のしおり」を制作する時は、旅先の行政機関や社会福祉協議会など、その土地の関係機関と事前に打ち合わせをすることも大切です。

その際に、旅先の情報だけでなく、例えば車椅子の貸し出しや「困りごと」を抱える人たちが利用しやすい交通機関などの情報を提供してもらえることもあります。また、実際に旅行した後も、旅行時に感じたこと、気づいた整備についてなどを旅行計画者から行政へ情報提供することによって、今後よりユニバーサルデザインを意識した整備につながっていくと考えます。

3 旅前に必要なこと / 船旅・島旅の「困りごと」とは

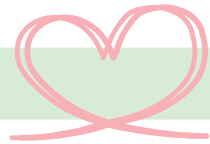
電車や飛行機、船に乗ってだれもが旅行できる時代ですが、「困りごと」を抱えるために旅行を諦めている人たちがいます。「困りごと」の内容は、他人の視線が気になる、日常と違うトイレだと不安になる、音に敏感、じっとしてられないなど千差万別です。

そのため、旅行を計画する前に、一緒に旅する人たちが顔を合わせ、「困りごと」を抱える人たちの行きたい場所や苦手な場所をヒアリングすることも大切な配慮です。

旅行を提供する側にとっても、旅する人がどのような「困りごと」を抱えているのかを事前に把握し、その人に必要な配慮や旅行先でのルールなどを確認し合うことができ、安心して計画を立てることができます。

今回、アイちゃん親子には、東海汽船の大型客船「さるびあ丸」に乗船してもらい、伊豆大島を旅していただくことにしました。その際、事前に「旅のしおり」を用意するだけでなく、一緒に旅する人たちと顔を合わせる場を設けたことで、全員が安心して旅に臨めました。

旅前インタビューで聞いた大切なお話



アイちゃんと母親に、旅前の気持ちを聞き、一緒に伊豆大島を旅する人たちと事前に会って、「困りごと」などの確認をしました。

<アイちゃんへの質問>

- ①「旅行やお出かけは好き？」
好きです。
- ②「伊豆大島は何が楽しみ？」
御神火温泉と大島温泉ホテルが楽しみ。絶対、海に入りたい！
- ③「船に乗ったら何したい？」
夜に展望デッキに行って、星空観察したい！
- ④「一緒に旅するお母さんに言いたいことある？」
ママにもリラックスして楽しんでもらいたい。自分は思い切りはしゃぎたい！



旅前インタビュー

<母親への質問>

- ①「旅行に対して、どのように考えていますか？」
これまで旅行のパンフレットを見ても、自分だけで十分な準備をして連れていけるのか不安で諦めていました。
- ②「船旅・島旅することをどう思いますか？」
子どもには、これまでできなかったことを経験させてあげられると思う。自分も船旅・島旅は初めてで楽しみです。
- ③「旅前の事前情報は必要ですか？」
特に子どもは事前情報を必要とするので、「旅のしおり」はありがたいです。一緒に旅する人たちにも事前に会えると、「この人たちは大丈夫」と安心できるので大切です。直接対面が難しいければ、オンラインで顔合わせができるだけでも安心です。

旅前に アイちゃんとした約束

- ・疲れたり、具合が悪くなったりしたら、すぐに大人に言うね。
- ・暑かったり、汗をたくさんかいたらお水をたくさん飲もうね。
- ・命に関わるような危険なことはやらない。でもそれ以外は思い切りはしゃいでいいよ。

4 表紙(日付) / 旅の目的・地図の掲載

表紙(日付)



作り方

どのような旅をするのか伝わりやすいタイトルを付け、旅行する期間の日付を目立つように載せましょう。また、実際に乗る船と旅先となる島の写真、地図を載せましょう。

ポイント

- ①船や島で実際に使われているキャラクターがある場合、しおりの「案内人」として登場させると、親近感やワクワク感を与えることができます。
- ②「困りごと」を抱える人たちによって、文字の読みやすさは変わります。事例では、すべて平仮名を用いて「分かち書き」で作成しました。旅する人の理解度に応じて、分かち書きにするか、漢字も使用するか、判断する必要があります。

●**分かち書きとは**…「わたしは はなが すき」のように文節の間を余白で区切り、記述すること

旅の目的・地図の掲載



作り方

表紙の次ページには旅の目的を書きましょう。どこへ、何をしに行く旅であるかを明確に伝えることで、不安を減らし、見通しを立てやすくします。

ポイント

- ①行く場所を地図上にマークすると、視覚的にも情報を伝えることができます。
- ②しおり全体を通して、上部の見出し箇所はページによるバラツキがないようにテンプレートをを用いて固定します。
- ③行く場所を示したマークに、その場所を説明するページ数を表記すると、見たいページを探しやすくなります。



5

一緒に旅する人たち / 旅の準備

一緒に旅する人たち

いっしょにたびするひとたち	
<p>あんないにん</p>  <p>ふわ・しまの せんもんか こばやしのおみさん</p>	<p>あんないにん</p>  <p>ゆにばーさまでいんの せんもんか ほしでちさん</p>
<p>えごもざいだんのひとたち</p>	
 <p>あおのせんもんか たかはしさん</p>	 <p>パリアフリーのせんもんか あわださん</p>
<p>しまのひとたち</p>	
 <p>おおしまの せんもんか ちばさん</p>	 <p>しまあそびの おつしん いとうきん</p>
	 <p>しまの カメラマン あおぬまさん</p>

作り方

一緒に旅する人たちの顔写真、名前、わかりやすい肩書きを載せましょう。事前に会うことも大切ですが、「旅のしおり」に載せることで、実際に旅する時の安心感が大きくなります。

ポイント

- ①顔写真は、はっきりと顔が写り、笑顔の写真を選ぶことが大切です。
- ②肩書きは、「〇〇の専門家」、「〇〇の達人」といった専門性をもたせた書き方をすることで、興味や関心を持ってもらうきっかけとなります。

旅の準備

たびのじゅんぴ	
<p>もちものリスト</p>	
<input type="checkbox"/> きがえ (30にちかん) <input type="checkbox"/> ぼうし <input type="checkbox"/> めずぎ <input type="checkbox"/> せんがんだうぐ <input type="checkbox"/> ほんから <input type="checkbox"/> じようびやく <input type="checkbox"/> よいどめ <input type="checkbox"/> おやつ <input type="checkbox"/> りゆっくさく <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> したぎ (30にちかん) <input type="checkbox"/> たいおる <input type="checkbox"/> はみがき せつと <input type="checkbox"/> ていっしゆ <input type="checkbox"/> ひやけどめ <input type="checkbox"/> おこずかい <input type="checkbox"/> たびのしおり <input type="checkbox"/>
<p>保護者の方へ</p> <p>・このしおりは、旅の準備が完了していることにより大きな安心となるお子さまと保護者さまに向けた「事前学習シート」です。事前に、お子さまと一緒に確認してください。</p> <p>・事前に時間が経つにつれて、お子さまと一緒に予定時刻を確認していただける「時刻シート」を準備している予定です。ご確認ください。</p> <p>・真夏の船となりますので、日よけ・日焼け対策となる持ち物は忘れずに用意してください。</p> <p>・船中で宿泊する船内の特等室には、洗面・着替え・タオルが揃っています。詳しくは15ページをお読みください。</p>	

作り方

旅行に必要な持ち物のリストは、「衣服」「洗面用具」「薬類」などの種類や分野別に分類して、チェック式で載せましょう。また、保護者向けの事項欄を設け、「旅のしおり」の目的や使い方、旅行中の注意事項などを記載します。なお、保護者向けなので、漢字を使用しても問題ありません。

ポイント

- ①船内で寝泊まりする客室や島で宿泊するホテルのアメニティについては、別ページで紹介することを明記します。
- ②季節に応じて、熱中症対策や虫除け、防寒具などが必要となる場合は、その項目をリストに記載するようにします。



6 目的地 / 船（移動手段） / 船内の設備

目的地



作り方

旅先（島）をわかりやすく紹介するために、日常生活をしている場所からどれくらい離れた場所にあるのか（距離）、どのような島なのかなどの情報と地図を載せましょう。

ポイント

- ①島内で使用されているご当地キャラクターを使うと、視覚的に情報が入りやすくなります。キャラクターは、島を紹介する「案内役」としてそれぞれ吹き出しを用います。本文で初めて登場させるときには、必ずキャラクターの名前を明記します。
- ②地図を載せる際には、大きさがわかるように尺図も載せます。

船（移動手段）



作り方

旅行で乗る予定の船を紹介するために、船の大きさや重さ、速さ、乗船定員数、船の名前の意味などの情報と船の写真を載せましょう。

ポイント

- ①船で使用されているキャラクターを使い、船に関する「案内役」として登場させます。キャラクターは、それぞれ吹き出しを用います。本文で初めて登場させるときには、必ずキャラクターの名前を明記します。
- ②「さるびあ」などイメージが湧きにくいものは、写真を載せて伝えます。

船内の設備



作り方

船内の客室や設備について紹介するために、各場所の写真と説明を載せましょう。実際の船旅で利用する客室が決まっている場合は、目立つ色で枠を囲うなどして、わかりやすく示します。

ポイント

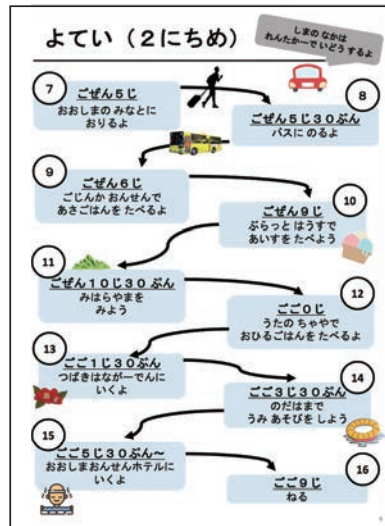
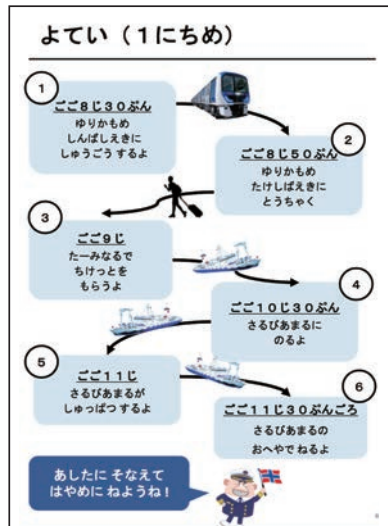
- ①主に船全体を紹介するページなので、共有スペースや客室のタイプを載せます。
- ②実際に利用する客室の中の設備については、別ページで詳細に説明します。

ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

今回の「旅のしおり」で、伊豆大島ジオパークのキャラクターである「ザブン」「ドカン」「ヒラリ」や東海汽船の船長キャラクターである「たちばなせんちょう」を使用したように、その土地や交通機関に関するキャラクターがある場合は、しおりの案内役として登場させると良いでしょう。大切なことやポイントを伝えることで、情報提供の一貫性を保つことができます。また、その土地や交通機関、しおりへの親近感もグッと増します。

7 行程の作り方

行程の作り方



作り方

旅の行程表は、「よてい (○にちめ)」として1日目、2日目、3日目など1日ごとに載せましょう。「一つの行動」を一コマとして捉え、時系列にしてすごろく形式で作ります。一コマごとに「何をするか」「どこへ行くか」など、事前学習する人がどのように行動すればいいのかわかるように書きましょう。

ポイント

- ①イラストや矢印を使って全体の流れを視覚的にも見やすくします。
- ②見通しある行程にするため、一コマごとに時間を明記します。
- ③1日目から最終日まで、一コマ目から通し番号を振り、該当番号を紹介しているページにも同じ番号を記載します。
- ④吹き出しやイラストを用いて、移動手段も明記します。



左上の番号と行程のコマ数を合わせます

ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

「困りごと」を抱える人たちは、疲れていることに自分で気付かず、頑張りすぎてしまう人も多くいます。日常生活と違って、慣れない体験をしたり、初めての場所に行ったりする旅行では、行程を詰めすぎず、ゆとりをもったスケジュールにすることが大切です。

8 集合場所 / ターミナルに行く / 乗船券の購入

集合場所



作り方

すごろく形式の行程表に記載した「一コマ」ごとに1ページを使って、番号順に紹介していきます。それぞれのコマに書いた内容と、時間、場所を上部にまとめて記載しましょう。

集合場所は、写真を載せて、赤い丸などを用いてより明確に合流する場所を示します。また、集合場所に来る人の顔写真も載せましょう。

ポイント

- ①どこで集合し、どこへ向かうのかわかりやすく伝えます。
- ②事前に時間が気になる人がいる場合は、予定時刻を自分で記載できる時計マークを載せます。

ターミナルに行く



作り方

船のターミナルの最寄駅で降りてからターミナルに到着するまでの道順を写真と矢印で示し、行動を記載しましょう。また、最寄駅の構内にあるトイレも紹介します。

ポイント

- ①トイレの表記はカコミなどの別枠で紹介し、「旅のしおり」全体を通して見せ方を統一します。
- ②ターミナルへの行き方が煩雑な場合は、細かく写真を分けてページ数を増やします。

乗船券の購入



作り方

ターミナルの紹介と、乗船券を購入する(引き取る)までの流れを記載しましょう。ターミナルで待ち合わせがある場合はその人たちの顔写真を載せます。また、ターミナル内にあるトイレの情報も紹介します。

ポイント

- ①ターミナルの人の多さやアナウンスの音など、視覚的、聴覚的な情報も事前に伝える必要があります。
- ②待ち合わせする人たちの顔写真は、「一緒に旅する人たち」のページで使用した写真と同じものを使います。

9 乗船 / 客室への行き方 / 客室での過ごし方

乗船



作り方

船に乗るまでの手順を紹介しましょう。乗船前に、乗船券に名前や住所、年齢などの情報を記入する必要がある場合、チケットの写真を載せて、どの部分にどのような情報を記載するのか赤い丸など目立つ色を使って、わかりやすく示します。

ポイント

行動をする際に特に気をつけるべきことは、トイレと同様にカコミなどの別枠で「気をつけること」として紹介し、「旅のしおり」全体を通して見せ方を統一します。

客室への行き方



作り方

乗船してから予約した客室に行く方法を説明しましょう。矢印を使い、行動を記載してわかりやすく示します。また、乗船後に船上から見られる景色などの情報も紹介します。

ポイント

- ①予約した客室にルームキーがある場合、キーをもらう方法も案内します。
- ②客室が船内の何階にあるかも明記します。

客室での過ごし方



作り方

寝泊まりする客室の室内や設備を紹介しましょう。客室にトイレやシャワーが付いている場合はそれぞれの写真と説明を載せます。

ポイント

- ①客室内にアメニティが備わっている場合は、何があるかを詳細に載せます。
- ②遅い時間の乗船でも、気持ちが高揚してなかなか寝付けないことがあるので、船長キャラクターの吹き出しで、「早めに寝ようね」などの催促をします。

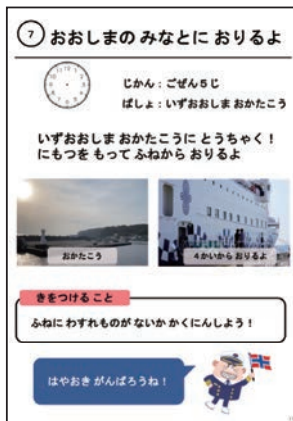
ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

「さるびあ丸」は、船内の空間を認知するための情報がとてもわかりやすく工夫されており、多様な人が利用しやすいように、あらかじめ環境をデザインするユニバーサルデザインの視点で作られています。

例えば、共有スペースの通路は歩行エリアと滞留エリアが床の素材と色で区別されていることで、狭い通路でも安心して歩行できます。また、他の乗客と一緒に過ごす船室では、絨毯の色を使い分けることでプライベートエリアが視覚的にわかるようになっています。周囲の視線や人混みが苦手で、プライベート空間を担保できることが大きな安心となる「困りごと」を抱える人たちにとって、船を使った移動は大きな可能性を秘めています。

10 目的地に到着（下船） / 移動（バスに乗る）

目的地に到着（下船）



作り方

旅行の目的地に到着し、下船を促す案内をするために、降りる港の風景や下船するフロアの階数を明記し、写真も載せましょう。

ポイント

- ①船長キャラクターの吹き出しを使って、早起きが必要であることを伝えます。
- ②「忘れ物」の注意喚起は、わかりやすく目立つように見せます。

移動（バスに乗る）



作り方

下船後にどのような行動を取るべきかを案内しましょう。バスに乗る場合は、乗車するバスやバス停、行き先の情報を写真と共に紹介します。

ポイント

場所によってバスの乗り方は様々なので、旅先のバスの乗り方、降りる場所、運賃の払い方を調べて、手順をわかりやすく伝えます。

交通サポートマネージャー研修と大島バスの紹介

エコモ財団では、直接お客様に接するドライバーや係員の方、さらに現場職員をまとめる立場の方に、バリアフリー対応における“基礎的な接遇・介助技術”の習得と“気づきの心”を磨いていただくための「交通サポートマネージャー研修」を実施しています。

伊豆大島では、島内を運行する大島バス（大島旅客自動車株式会社）の管理者や乗務員が研修を受けています。現在は観光客だけでなく、高齢者や歩行に困難がある、認知機能の低下がみられる人なども路線バスを利用する機会が増えています。研修を受講することで、ハード面とソフト面の両方からサポートする必要性を学び、乗客の安心と安全に取り組んでいます。



交通サポートマネージャー研修について

11 食事する

食事する



作り方

お店で朝食や昼食を取る場合は、店の外観や内観、食事をする席の写真を載せて、具体的にどの席で食事が取れるのかわかるようにしましょう。食事内容については、ご当地のおすすめメニューを載せる一方で、他にもメニューの選択肢があると伝えることも大切です。また、それぞれの店のトイレの写真も載せましょう。

ポイント

- ① 旅先のご当地メニュー以外にもメニューの選択肢が多い店を選び、その旨をきちんと伝える必要があります。
- ② 「困りごと」を抱える人たちの中には、他人が気になって落ち着かなかったり、隅っこの席でないと安心できなかったりする人もいます。旅行を計画する際には、予約する席を工夫し、「旅のしおり」に載せた席と実際の席が異ならないようにします。

ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

「困りごと」を抱える人たちの中には、食事場所は周囲の視線が気にならない席やプライベート空間が作りやすい部屋の端を好む人が多くいます。同伴する大人（家族）にとっても、部屋の端は安心して過ごせるエリアであるという声が多く聞かれます。場合によっては、衝立やパーテーションを利用すると、カムダウンやクールダウンエリアとなっており、不安な気持ちを落ち着かせ、人目を気にせずゆっくり休めるようになります。

また匂いや味覚などに感覚過敏があったり、初めての食べ物や料理が食べられなかったりといった「困りごと」を抱える人たちにとって、食事のメニューは選択肢が多いと安心です。

12 観光する

観光する

土産物屋やショップに行く場合



作り方

旅行先の名物を買ったり食べたりできる店に行く場合、その店の外観と内観、名物の写真と説明を載せましょう。観光地にあるトイレの写真も必ず載せて案内します。

ポイント

伊豆大島では、島の牛乳で作ったアイスクリームが食べられ、朝採れ野菜を販売している店を選びました。旅行者の親も楽しめる場所を選び、子どもだけでなく大人への配慮もあると良いです。

専門家にガイドをしてもらう場合



ユニバーサルデザインの 視点でみる

橋口コメント

「困りごと」を抱える人たちは、純粹で素直で嘘がつけない、興味関心のあることを探求する、人が気づかないことに気がつくなど、すばらしい特徴がたくさんあります。しかし、できないことや「困りごと」に着目しすぎるあまり、その人の学びや経験の機会を奪ってしまっていることは多々あります。

旅行先でさまざまな専門家から話を聞くことは、興味関心や探究心の幅を広げ、深める機会となります。同時に、専門家との出会いによって、見える社会や世界、夢や可能性をひろげる貴重な機会となります。観光の財産は、その土地や特産物であることはもちろんですが、人の魅力も大きな財産です。専門家の存在は、「困りごと」を抱える人たちにとって魅力的な観光資源の一つと捉えましょう。

作り方

専門家にガイドをしてもらう場合、どこで、どんな専門家に何を案内してもらうかを説明します。目的地の景観や外観、専門家の顔が分かる写真を載せましょう。

ポイント

- ①専門家の紹介は、吹き出しやキャラクターを使って興味を引き出します。
- ②クイズ形式を用いて専門家に話を聞くきっかけを与えます。
- ③施設のトイレが工事中で仮設トイレなど、特筆すべき情報は必ず記載します。

自然の中で遊ぶ場合



作り方

海や山など自然の中で遊ぶ場合、行く場所や周辺にある観光名所などの写真と説明を載せましょう。また、怪我や命に関わる危険性がある場所では、必ず「してはいけないこと」をわかりやすく載せ、注意喚起しなくてはなりません。

ポイント

- ①注意喚起の内容は、具体的に「～してはいけません!」「～するようにしましょう」という書き方を行い、どのような行動を取ればいいのかわかりやすく伝えます。
- ②トイレだけでなく、シャワーや更衣室などの施設を利用する場合は写真を載せます。
- ③伊豆大島の旅前で、アイちゃんは「海で思い切りはしゃぎたい」と言っていたので、「してはいけないことは守り、それ以外は思い切り遊んでいいよ」と一緒に旅する大人と約束しました。事前の約束があると、「旅のしおり」の注意喚起も理解しやすくなります。



ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

集中することが苦手、じっとしていることが苦手、衝動的に反応して大きな声を出してしまうなどの特徴がある人は、小さい頃から周囲の人に怒られる経験をしていることが多々あります。一方で、親や家族も「ダメ!」と言うことに大きなストレスを感じています。

しかし旅行は、誰もが楽しめる場です。だからこそ、できるだけ「ダメ!」と言わない環境を事前につけておくことが大切です。

旅行先で大きな声が出せ、走り回れる場所を設定して、子どもも親ものびのびと過ごせるように配慮をしましょう。旅行は親にとっても大切なレスパイトの機会なので、親も楽しめる場所を選ぶことも必要です。

『レスパイト』とは

親が一時的に日常生活や子育てから解放されることで、新たな気持ちで子育てに向き合うことを可能にする必要な支援のこと

13 宿泊する

宿泊する



作り方

旅行先で宿泊するホテルを紹介するため、ホテルの外観と、ロビーや食堂、温泉、展望デッキなどのホテル内設備の写真と説明を載せましょう。

ポイント

- ①ホテルが「広い」「廊下が暗い」などの注意が必要な情報は事前に伝える必要があります。
- ②チェックインする場所や夕食の時間も記載します。



作り方

ホテルの泊まる部屋を紹介するため、部屋全体の写真だけでなく、洗面台やトイレ、浴室もそれぞれ載せましょう。また、部屋に備え付けられているアメニティやグッズもすべて案内します。

ポイント

普段と異なる場所で泊まることは、「困りごと」を抱える人たちにとって大きなハードルとなる場合があります。そのため、ベッドなのか布団で寝るのか、どんなトイレやお風呂なのか、ドライヤーの有無などを載せる必要があります。



作り方

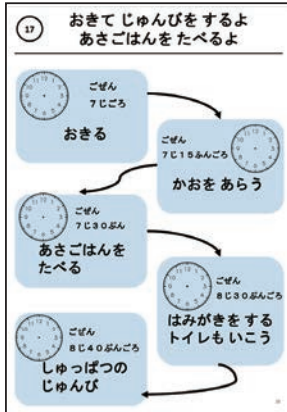
「寝る」ことを促すページを作りましょう。日常生活と異なる旅行という環境で、気分が高揚して寝付けぬ人も多くいます。気持ちを落ち着かせて、寝る準備となる「今日のメモ」を設けると良いでしょう。

ポイント

「今日のメモ」では、具体的に何を書くのか迷う人もいますので、どんなことを書いたらいいのか、キャラクターを用いてヒントを伝えます。

14 朝の準備 / ホテル出発

朝の準備



作り方

ホテルに泊まり、次の日を迎えて出発するまでの準備について案内しましょう。起床、朝食、出発の準備など、それぞれの時間と行動を記載し、矢印を用いてすごろく形式にします。

ポイント

- ①時間が確認しやすいように、時計マークを載せます。
- ②時間が曖昧な場合は「分ごろ」と明記します。

ホテル出発



作り方

ホテルを出発する際の案内をしましょう。チェックアウトをして集合する場所を示し、忘れ物や出発前にトイレに行くなどの注意事項も載せます。

ポイント

その日の移動手段も伝えます。

ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

ホテルでは、心身ともにリラックスして休めることが大切です。そのために、まず「困りごと」を抱える人たちに必要となるのが「事前情報」です。ホテルの場所や雰囲気、部屋やトイレ、食事場所の情報はもちろん、アメニティやグッズなどについても、事前にわかっていることが大きな安心になります。

また滞在で大切なことは、チェックインした後の夜の時間とチェックアウトまでの朝の時間にゆとりを持たせることです。特に、行程が決まっている旅は、時間に追われてしまうように感じる方も多く、それらが焦りや不安となってしまう場合もあります。だからこそ、ホテルではゆっくりと気持ちを落ち着けて休めるように、ゆとりを持った時間設定が大切です。

15 帰りの船に乗る / 解散

帰りの船に乗る



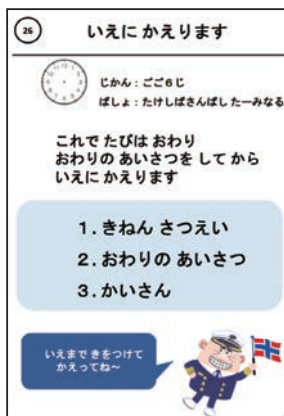
作り方

旅行先から帰る時の移動手段である船の案内をしましょう。島を出て「お別れする」ことをきちんと伝えるため、乗る船とお別れ風景の写真を載せます。船の中でできるアクティビティがあれば紹介しましょう。

ポイント

- ①島の案内役であったキャラクターを載せて、「また来てね！」などのセリフを載せて、お別れを意識させることが大切です。
- ②船に乗ったらデッキからお別れできること、その後に客室に移動することも案内します。

解散



作り方

旅行先から戻る場所と到着時間を案内しましょう。天候などによって到着時間が変わる可能性がある船は、そのことを必ず説明します。

また、家に帰ることも伝えましょう。その際に、一緒に旅した人たちと「記念撮影」や「終わりの挨拶」をする時間を設けて、旅が終わることを意識させることが必要です。

ポイント

- ①一度、行きで利用した場所であっても、不慣れな場所のトイレは特に不安になる場合があるので、トイレの写真を載せます。
- ②旅の終わりを伝えるため、解散までの流れを番号順に示すと分かりやすくなります。

ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

旅の終わりは、誰もが、楽しいことが終わってしまうさみしさや、人との別れに名残惜しさを感じるものです。「困りごと」を抱える人たちの中には、そのさみしさや名残惜しさから、終わりをいつまでも引き伸ばしてしまったり、終わり方がわからなくなったりして困っている人もいます。「終わりのあいさつの場」を設定することで、きちんと旅を終わらせるように意識を促してあげることが大切です。

16 休憩場所 / その他

休憩場所



作り方

旅行中に必要なカームダウンやクールダウンができる休憩場所を紹介しましょう。休憩場所の所在と写真を載せます。

ポイント

- ①休憩場所で購入や体験できるものがあれば載せます。
- ②休憩場所にいる人（店員）の顔写真があれば載せます。

ユニバーサルデザインの視点でみる 橋口コメント

旅行始めや初日は張り切って元気がいっぱいでも、時間の経過とともに疲れは出てくるものです。特に、「困りごと」を抱える人たちにとって、知らない人が同行するツアーなどは、常に周囲に他者の存在と視線があるため、気が休まらず疲れてしまう人が多くいます。そのため、定期的に休憩時間を設けることが大切です。

さらに、カームダウン・クールダウンができるスペースがあれば利用しましょう。本人もしくは家族だけで過ごせるスペースで、ゆっくり気持ちを落ち着かせることができると、旅行を最後まで楽しむことができます。同行者の親や家族にとっても、常に周囲に人がいる中でかっこ悪い姿を見せたくない、頑張りすぎて疲れてしまうことが多々あるので大切なスペースです。



カームダウン・クールダウンができる休憩場所

その他



作り方

旅行中に専門家に聞いた話や自分で感じたことなどをメモするページを設けましょう。また、旅行の前や最中、帰宅した後にできるぬりえページを作ると、気持ちを落ち着かせたり、旅行をポジティブに感じたりするのに役立ちます。

ポイント

旅行に関連したキャラクターを使います。

旅前の希望を叶えながら、突発的な予定変更に対応する



「困りごと」を抱える人たちは、日常生活の中で行きたくても行けない場所が多くあるので、ポイントを押さえながら旅前の希望を叶えていくことは、その時の満足感や達成感だけでなく、日常生活の移動や行動の範囲を広げる大きな勇気と自信になります。

一方で、天候や突発的な諸事情で、予定変更せざるを得ない場合も発生します。対応法は大きく分けて2つあります。1つ目は事前に、天候などで叶えられない場合があることを伝えて、代替案も考えておくこと。2つ目はできるだけ早く予定変更の理由を伝え、どのように変更するのかを伝えることです。

見通しが大切な人たちにとって、あらかじめ予定変更が発生した時の心算や練習をしておくことは、突発的な予定変更に対してとても効果的です。

予定外の体験も可能か



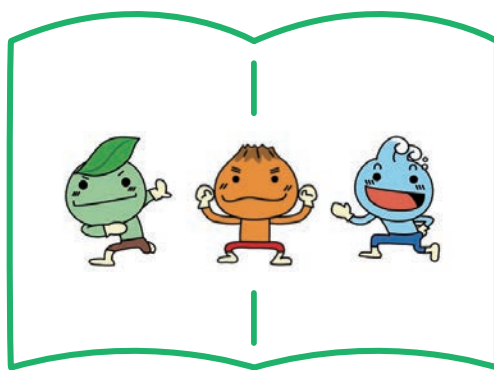
旅行中は、予定にない偶然が起こることがあります。アイちゃんが旅した伊豆大島では、三原山展望所から次の目的地へ向かう途中、思いがけずホースセラピーをしている人と出会い、牧場で馬と触れ合う体験をさせていただきました。

そんな偶然や出会いも大切にできるように、あらかじめゆとりのあるスケジュールにしておくことで安心です。また、予定や時間に変更が起きる場合は、どのように変更になるのか、次の予定の時間までどれくらいあるのかなど、変更内容を具体的に伝えることが大切です。

お知らせ

アイちゃん親子が体験した船旅・島旅は、動画「だれでも楽しめる船旅・島旅～一人ひとりにあったユニバーサルデザイン旅の手引き」で紹介しています。





伊豆大島ジオパーク公式キャラクター
(ザブン・ドカン・ヒラリ)

制作：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
監修：橋口亜希子（橋口亜希子個人事務所）
編集・文：小林希（株式会社 Office ひるねこ）
デザイン：株式会社 TIAM
協力：東海汽船株式会社
一般社団法人大島観光協会
伊豆大島ジオパーク推進委員会

だれでも楽しめる船旅・島旅
～一人ひとりにあったユニバーサルデザイン旅の手引き～

2022年11月発行
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-14 後楽森ビル 10階
電話：03-5844-6291（代表）
FAX：03-5844-6294
URL：<http://www.ecomo.or.jp>